

第170回 令和8年2月5日（木）

「ピンチはチャンス」

「災い転じて福となす」とは、困難や不幸な出来事をきっかけに状況を好転させ、最終的には幸運や良い結果を引き寄せる意味する日本のことわざです。この言葉は、逆境や試練の中でも前向きに努力し、知恵と工夫を發揮することで、人や状況がより良い方向へ進む可能性があるという教訓的な考え方を表しています。

このことわざの考え方は、日本のみならず、他の多くの文化や哲学にも見られる普遍的な教訓です。儒教や仏教の思想にも通じる価値観で、「逆境で試される人間の精神力」や「悪い出来事から新しい道を開ける」という考え方反映されています。

逆境はきついものですが「火事場の馬鹿力」という言葉があるように人間は開き直ると意外と強みを発揮します。失うものが何なくなった時、真の実力が出ることもあります。例えばここで失敗したとして、いったい何を失うのか。ほとんどは取り返しがつくことだったりします。

1923年に起きた関東大震災は大規模な被害をもたらしましたが、その復興活動を通して都市計画が進められ、より頑強なインフラの整備が促進されました。災害を契機として、地域社会全体がより強靭な仕組みを作り上げた例もあります。災害自体は悲しむべきことではありますが、生き残った人々が前を向くことで次の世代に残せるものが生まれてきます。

日本は敗戦の混乱を経験しましたが、その後経済復興を成し遂げ、最終的には世界有数の経済大国へと成長しました。これも荒廃した国土の中で希望を失わなかったからできたことでしょう。

このように失敗や困難がきっかけで、新たなスキルや経験を積む例はたくさんあります。悪い出来事に直面したとき、避けるのではなく、冷静に受け止める姿勢を大切にして、困難を克服するプロセスの中で、自分を成長させたり新しい可能性を見つけたりすることが重要です。

「問題」そのものを「学び」としてとらえると結果は変わります。これは「努力」と「工夫」によるものです。ただ待つのではなく、前向きにアクションを起こすことが成否を握るポイントです。

ピンチが続くと心が折れそうになります。「どうしてこれほど悪いことが重なるのか」と感じることもあります。それでも嵐が去った後は、そう簡単には折れない心ができているかもしれません。

逆境というのは人間を強くします。順風満帆は予期せぬ出来事にたやすく翻弄されることもあります。成功した人はほとんどが逆境を糧にしています。そもそも逆境である自覚がなく、自分を成長させるためのテストのようなものであると考えているのかもしれません。

人生で起きることのほとんどは「何とかなります。」